

## はじめに

あなたにとって、父性<sup>ふせい</sup>とはなんですか？

どのように解釈しているでしょうか？

一般的に父性は母性<sup>ぼせい</sup>と対になる言葉として使われることが多いと思います。母性とは、家庭での子育てにおいて、主に母親に求められる機能・役割のことであり、父性とは、主に父親に求められる機能・役割のことです。

しかし、本書では、「父性」という言葉の意味を、もっと広義に解釈しています。父性は何も父親だけのものではなく、母親だって、子供のいない女性だって、子供だって、すべての人が身につけられるエッセンス・機能・役割なのだという考えです。トレーニングさえすれば、誰だって父性を身につけることができます。

今の日本人に一番足りておらず、心の奥底で飢えているものこそ、父性なのではないか？ と私は思っ

ているのです。

「私はずっと子供のままでいたい」「私はずっと自由気ままでいたい」「私は一切の責任をとりたくない」という考えの人にとって父性は必要ありません。そういう人はこの本を手取る必要はないでしょう。しかし、もし、あなたが組織のリーダーになる、役職につく、子供ができて親になる、起業して社長になる……など、人生において責任をとる方向に進むとき、父性は必要になってくるのです。

子供の不登校、引きこもりやニートの増加、婚姻率の低下、出生率の低下など……日本が抱えるさまざまな問題の原因は、父性のない大人が増えてしまったからではないでしょうか？

本書は私の人生のテーマである「父性とは何なのか？」を探求してまとめた父性の入門書、基本となる教科書です。本書を読むことで、あなたの中に少しでも父性が芽生え、あなたの周りの人に少しでもよい影響を与えることができれば、これ以上嬉しいことはありません。